

シチズンシップ共育企画
2010 年度事業計画

シチズンシップ
共育企画

Planning Office for Citizenship Co-Learning.

「じぶん」になる、「しみん」になる。

〒661-0965 兵庫県尼崎市次屋 1-2-20 ハイツアメニティ 2-203

Tel 070-6506-0369 E-mail kwnk@nifty.com URL <http://homepage2.nifty.com/citizenship/>

シチズンシップ共育企画
2010 年度事業計画案
(2010 年 1 月～12 月)

「じぶん」になる、「しみん」になる。

アクティブな市民になれるために。民主的な対話を実感／実現するために。
市民的リテラシーを獲得した民主主義の担い手が育つ社会の実現のために。

シチズンシップ共育企画は、「市民としての意識と行動力」が向上するための学びの場をつくる NPO です。特に、市民が社会参画していく技能の内、「コミュニケーション力」「協議力（合意形成力）」「マネジメント力」「社会問題発見力」の 4 つの市民力と、社会参画を支援する力（教育ファシリテーション力）を中心テーマに据えて、講座・ワークショップを実施しています。

1. 2010 年度事業計画案のポイント

- (1)複数あった高校生対象の市民教育事業を統合
- (2)ユースアクションファンド（仮称）の創設へ
- (3)教育ファシリテーター講座は独自性を強化し、2 コース制で展開
- (4)骨太教員養成プロジェクト、本格的なプログラム提供を開始
- (5)ユースナレッジマーケット、学生団体幹部対象プログラムを新設

2. 2010 年度事業計画案の内容

■市民教育事業部（担当役員：小林）

(1)ユース ACT プログラム（主任：鈴木） 改編

○名称：「ユース ACT（Active Citizenship Training）プログラム」

○内容：昨年度まで、実施地域の違いから、STEP 事業とコミュニティリーダー育成事業に分かれて取り組んでいた高校生対象の市民教育事業につき、統合化することとする。両事業の蓄積をもとに、市民がアクティブ・シチズンシップを形成していくために、段階的なプログラムを開発していき、パッケージ化を進める（プログラム全体名称は「ユース ACT プログラム」とする）。その上で、対象地域において必要性が高いと判断されるプログラム（コース）を実施する。その際、参加者の自発性に基づく実践経験に取り組むことを重視したい。

〈09 年度からの変更〉

- ・従来の STEP 事業（阪神地域）については、阪神地域の学校外の高校生の居場所となっている機関との連携を深め、高校生の参画を得ながら、導入的なプログラムを軸にコース設定を考えていく。

- ・従来のコミュニティリーダー育成事業（京都地域）については、進路の定まった高校3年生を主たる対象とする3ヶ月程度の中期プログラムを開発する。従来の半年間にわたる長期プログラムの実施については、実行委員会において上期中に結論を得ることとする。
- ・2事業の統合に伴い、毎月1回合同全体ミーティングを設け、意思疎通を図る。
- ・両事業とも、まず大学生スタッフによって企画立案された具体的な活動のスタッフ参加者として高校生を集め、その後、高校生の手による企画立案へと展開する形態を基本形とする。
- ・両事業とも、高校生をサポートする大学生について、その支援の質向上のため、まず彼ら／彼女らが社会活動体験の機会を設け原体験を得るようにし、また、ユーザー研修もしくは教育ファシリテーター講座の受講を原則とする。

○時期：2010年1月～2011年3月（複数年度事業）

○場所：京都地域および阪神地域（青少年活動施設や研修施設等）

○対象：対象地域内の高校生

○目標：両地域とも、高校生対象企画1本以上実施し、参加者を10名獲得する。

フェーズ1

2010年度～2011年度：試行実践の展開とプログラムを継続的に開発する（ニーズや状況を分類し、複数パターンの開発）。普及のありかたに関する検討を行い、結論を明らかとする。地域内での他機関の事業との連動性に関する認識を整え、適宜連携を進めていく。

フェーズ2

2012年度～2014年度：テキストの発行等による、プログラムの全国的普及。当会は京都・阪神地区での実践を中心に関わり、他地域については、プログラムの導入支援に関わる。

フェーズ3

2015年度～2018年度：関西地域での実践者によるコミュニティを形成し、関西アクティブ・ユースネット（仮称）を設立し、地域間でのナレッジ共有やムーブメント形成を進める。

○備考：京都地域では引き続き、教育機関をネットワーク化し、実行委員会形式で実施し、当会が事務局を担うこととする。昨年度に立ち上げた「あくと応援団」についても継続運用する。

(3)ユースアクションファンド（仮称）創設事業 新規

○内容：京阪神において、社会参加活動に取り組む高校生・大学生のグループに対する助成活動を行う基金を創設する。助成先に対しては、資金提供のみではなく、年間を通じた

マネジメント研修やハンズオン支援も提供し、助成活動の企画のブラッシュアップや円滑な運営の実現に向けた支援も行う。また、助成活動の申請代表者を当会フェローと認定し、また、助成対象活動は当会共催とし、当会のもつ各種経営資源の利活用を可能にする。

今年度は、上半期の時間をかけ、助成メニューの開発、助成対象活動や助成対象経費の検討、審査基準および審査方法の検討、審査員の選考、申請書式の整備、広報方法の検討といった発足準備にあて、下半期から助成先を募集することとする。ただし、上半期中に行われる上記事項の検討が不十分であると運営委員会にて判断される場合、助成活動の開始を次年度からに繰り越すこととする。

発足当初の原資としては、当会の剰余金の一部を当てるが、市民からの寄付も積極的に集めていく必要があるため、ファンドレイジング活動についても下半期以降、具体的な検討を始めることとする。

○目標：基金を立ち上げ、3件程度の助成を行う（助成総額30万円）。

フェーズ1

2010年度～2011年度：毎年、3件程度の助成活動を行い、その検証を通じて、効果的な助成プログラムのあり方について方向性が明らかとなる。

フェーズ2

2012年度～2014年度：毎年、5件程度の助成活動を行い、市民からの寄付がその原資の4分の1以上を占めているようにする。全国的に類似した助成プログラムを調査し、資金的な若者社会参加活動支援の課題を明らかとする。

フェーズ3

2014年度～2018年度：毎年、5件程度の助成活動を行うと共に、過年度の助成活動の「その後」の検証を通じて、助成プログラムのあり方を再検討する。他地域へのモデル普及のため、ナレッジの整理作業を開始し、次のフェーズにつなげる。

○備考：同基金は任意団体として発足させることとする。

(4)セルフカルチャープログラム事業（主任：鈴木） 継続

○内容：既にNPO等で活動している市民がアクティブ・シチズンシップを形成すると同時に、一人ひとりが他者と共に生きながら自分らしく生きていけるような自己を修養する機会として、各種ワークショップを提供する。その際、以下の4つの視点に立脚したワークショップを企画することとする。

- ①自分に気づく（自らの気持ちや考えかた、生きかたへの気づき）
- ②自分を表す（自らの気持ちや考えの表現）
- ③自分を鍛える（自らの世界観の鍛錬と拡張、自ら学び続ける力の向上）
- ④他者と共に生きる自分を育む（自他のつながりへの気づきと共生の技法の修練）

〈09年度からの変更〉

- ・昨年度は、上記の「4つの基本柱」について、それぞれに対応する形でプログラムを開発していくこととしていたが、今年度からは「4つの視点」とし、いずれのワークショップを開発する際にも全ての視点を参照し、総合化されたプログラムを企画していくこととする。
- ・今年度の「生と死の共育ワークショップ」では、「無縁社会」に対する社会的な問題意識の高まりを受け、「家族的なもの」を主題として以下の通り実施する。
〈テーマ〉あなたは誰に看取られたいか？
〈日時〉2010年10月16日（土）～17日（日）
〈場所〉應典院・大蓮寺
〈対象〉テーマに関心あるもの（高校生以上）10名
- ・また、今年度より上記のデス・エデュケーションに加え、「対話教育」も重点テーマとし、プログラム開発を行う。

○目標：年間を通じて、5本以上のプログラムの開発と実施

フェーズ1

2010年度～2013年度：プログラムの開発・試行・改善を年間5本ずつ行う。

フェーズ2

2014年度～2015年度：過去に行ったプログラムを整理し、大学での課外教育プログラムとして実施可能な形態に組み替えたモデルプログラム・テキスト作成。

フェーズ3

2016年度：事業検証および再編

○備考：本事業の企画・実施にあたっては他のNPOとの協働を積極的に進める。

(5)講師派遣プログラム（主任：川中） **継続**

依頼のあった大学等で非常勤講師に着任し、市民教育に関する科目を担当する。2010年度、予定されている学校・科目は以下の通りである。

〈春学期〉同志社大学大学院総合政策科学研究科「コミュニティデザインの理論と実践」

甲南大学「ボランティア論」、大阪樟蔭女子大学「教育社会学」

岐阜県立森林文化アカデミー「コミュニティデザイン論」

〈秋学期〉大阪樟蔭女子大学「教育社会学」、上智大学日本グリーンケア研究所「NPO論」

(6)その他の活動

○京都地域において、NPOの教育プログラムの学校導入を促進し、シティズンシップ教育の推進を図る「クリエイティブ・シチズン・プロジェクト」に参加する。

■ファシリテーター養成事業部（担当役員：東末）

(1)教育ファシリテーター講座（主任：鈴木） 継続

○内容：教育現場で実際に役立つ教育ファシリテーションの技法を習得できる学びの場として、昨年度の「基礎編・中級編・上級編」の3コース制を再編し、アクティビティデザインやプログラムデザインに軸をおく「ベーシックコース」と、プロセス観察・介入やありかたに軸をおく「アドバンスドコース」の2コース制で実施する。なお、受講生には過年度同様「学びのデザイン研究会」への参加を促し、経験に深みをもたらす機会を提供する。

○時期：〈ベーシック〉2010年6月5日（土）～6日（日）

〈アドバンスド〉2010年8月7日（土）～9日（月）

○場所：大阪市内の宿泊研修施設（KOKO PLAZA/新大阪ユースホステル）

○対象：教員、教職志望者、社会教育施設職員、NPOスタッフ 20名程度を定員

(2)学びのデザイン研究会（主任：川中） 継続

○内容：関西地域のファシリテーターが分野を超えて「実践知」を交換し合いながら、ネットワークワーキングしていく機会を提供する。

○時期：原則隔月1回

○場所：阪神間の社会教育施設

○対象：ファシリテーターとして活動しているもの 各回10名定員

○備考：運営委員会においてテーマおよびゲストの検討を行うこととする。

(3)骨太教員養成プロジェクト（主任：鈴木） 継続

○内容：「もう一つの教職課程」というコンセプトのもと、既存の教職課程や教職志望学生支援の取り組みにおいて充たされていないニーズに応えるための連続講座プログラムを開発し提供する。今年度は、昨年度、本プロジェクト委員会において議論検討されたプログラムを11月～2011年2月に本格実施できるよう、試行プログラム実施や委員会での継続的な検討を進める。また、同時に4月から教員になるメンバー等を中心に学びあうコミュニティを形成していく。

○時期：2010年1月～2011年3月（複数年度事業）

○目標：本格実施プログラムに10名の参加者を得る。

フェーズ1

2010年度-2011年度：プログラムの開発・試行・改善を行い、効果あるプログラムをデザインする。

フェーズ2

2012年度-2014年度：プログラムの社会発信（ブックレット発行）と学校教育研修

関係者のエンゲージメント。大学もしくはメディアと連携した「採用前教育」に関するシンポジウムの開催。

フェーズ 3

2015 年度-2017 年度：「採用前教育プログラム」の受託事業化。

○場所：京阪神地域

○対象：教員採用試験合格者および小中高の若手教員、教員志望者

○備考：昨年度に引き続き、外部委員の参画を得て、事業展開していく。

■協働推進事業部（担当役員：大本）

(1)ERC（教育リソースセンター）（主任：鈴木） 継続

○内容：NPO と中学・高等学校との教育協働の推進のために、昨年度、ERC 委員会にて議論検討され、方向性として示された、学校教員向けにカスタマイズされた NPO の団体情報や教育プログラム情報を集めたウェブサイトの具体化について、今年度は情報収集（取材）およびサイトデザイン等を進める。

○目標：ウェブサイト掲載情報を収集完了し、サイトの基本設計が完了する。

フェーズ 1

2010 年度-2011 年度：「NPO の教育力」をテーマとする情報サイトを制作し、公開する。掲載団体目標数を 30 団体とする。

フェーズ 2

2012 年度-2014 年度：ウェブサイト掲載情報の更新および掲載団体数の増加。

フェーズ 3

2014 年度-201 年度：ウェブサイトの意味の検証および今後の方向性のあり方検討。

○備考：昨年度同様に ERC 企画委員会を設置し、外部有識者と共に検討していく。

(2)神戸市市民参画推進局「協働と参画のプラットフォーム受託事業（主任：川中） 継続

昨年度に引き続き、NPO と神戸市、NPO と地域組織の協働を促進するための環境整備やコーディネート等に取り組む。新たに今年度よりソーシャル・ビジネスの振興策の検討についても取り組んでいく。

■NPO 支援事業部（担当役員：川中）

(1)講師派遣プログラム（主任：川中） 継続

NPO・市民組織、教育機関を対象に開催されるマネジメント講座や内部研修、各種ワークショップ、会議へ講師・ファシリテーターを派遣する。

○目標：年間 80 本程度の派遣を目標とする。（08 年度 80 本、09 年度 81 本）

これまでの研修資料をもとに研修テキストを作成・発行する。

○備考：今期は、他機関の支援メニューの実施状況を勘案し、政策提言やファシリテーショングラフィックなどをテーマとする主催講座の企画実施を年度中に検討する。

(2)ユースナレッジマーケット（主任：鈴木） 継続

○内容：学生ボランティア団体を対象とするマネジメント研修を開催し、学生による市民公益活動の強化機会を提供する。今年度は、昨年度までの参加団体の全スタッフが参加する合同研修型に加え、幹部スタッフのみを対象とする集合研修型も組み合わせて実施する。合同研修型は年2回程度、集合研修型は年2回程度の実施を予定する。

○時期：〈合同研修型〉6月12日（土）～13日（日）（案：新人研修）

2月（案：事業評価研修）

〈集合研修型〉8月（案：リーダーシップデザイン研修）

11月（案：個々人の学びの振り返り）

○場所：関西圏の研修施設

○対象：関西圏の学生ボランティア団体メンバー

○備考：合同研修型については、参加団体役員による企画会議を設け、また、事務局業務を参加団体で分担する。適宜、関西圏の若手NPOスタッフにゲストサポーターを依頼することも検討する。

(3)外部委員の就任（主任：川中） 継続

依頼のあったNPO・市民組織や行政等の外部委員に就任し、テーマに沿った課題について解決に向けた支援を行う。2010年度、予定されている委員は以下の通りである。

(特)まちなか研究所わくわく理事、(特)BrainHumanityフェロー、

(財)京都市ユースサービス協会企画委員、(財)大阪府男女共同参画推進財団理事

京都市青少年活動推進協議会専門委員、尼崎市総合計画審議会委員、尼崎市きょうDo検証会議委員、

兵庫県社会福祉協議会ボランティア・市民活動センター機能強化指標検討委員会委員

愛知県ユースワーカー地域連携事業アドバイザー

(4)その他の活動

○京都地域において、NPOワーカーの能力開発をインターNPOで体系的に総合的に進めるため、「NPOワーカーズカレッジ」を開設するため、有志を募りプロジェクトを立ち上げる。

当会はその事務局を担うこととする。

○ひょうごNPOユースの世話人として次世代育成とNPOスタッフの研修環境整備に取り組む。

○情報誌『NPOマネジメント』における「誌上マネジメント相談コーナー」への寄稿。

6. 組織開発にかんする計画

■ 経営体制

2010 年度の経営体制については、今年度より総会を最高意思決定機関とし、日常的な意思決定については運営委員会で決することを原則とし、毎月1回の定例の運営委員会を開催する。また、日常の業務執行ベースでの一次的な意思決定については代表に委任する。

ビジョンの策定や組織課題の整理と解決策の検討、事業の評価および計画については、年1～2回程度、合宿会議を開催し、集中的な議論を行ない、ガバナンスに取り組む。また、監事とは年1回程度、第三者的な視点からの問い直しの機会を得ることとする。

法令遵守を旨とし、税務会計事項については久保栄吏税理士事務所を通じて、労務事項については社会保険労務士永井弘行事務所を通じて、適正に処理することとする。その他の法務についても法令の定め範囲における運営に留意する。

■ 執行体制

事務局長を全体統括責任者としつつ、4月より採用する新規職員（事務局次長）がいくつかの事業について統括を担うこととする。事務局長・次長と協働するパートナーとして、適宜プロジェクトごとに学生インターンを募り、その内より学生インターンを束ねる者を事業コーディネーターに任命する。事務局次長および事業コーディネーターには、事務局長の権限を一部委譲し、事業推進の迅速化を図る。各事業には、スーパーバイザーとして担当運営委員を任命し、サポートする体制を整える。事業コーディネーターは、その希望に応じ、担当役員との個別面談を受けられるようにする。

また、学生インターンについては、ユース ACT プログラムをはじめとする市民教育事業部を中心に10名程度獲得していき、ファシリテーター養成事業部にも過去の当会講座参加者より若干名確保することを目標にする。学生インターンの能力開発については、ユースワークやコミュニケーショントレーニングにかかる研修会等の実施や教育ファシリテーター講座やユースナレッジマーケットへの参加を推奨して進める。新規採用職員の能力開発については、OJT と Off-JT を組み合わせた人材育成計画を別途立て、運営委員会がその責任を負って、進めていくこととする。

昨年度から重点的に取り組んでいる広報機能の強化については、昨年度に制作したパンフレットとウェブサイトの連動性を高めるなどの必要性が考えられ、今年度、ウェブサイトリニューアルすることとする。

以上